

### 【水は方円の器に随う】

人は環境、とりわけ友だちによって、善くもなったり、また悪くもなったりするものです。この諺は、その譬えによく使われる言葉で、このあとに「……に随い、人は善悪の友による」と続きます。

出典は、「人君たる者は、なお孟(う)のごときなり。民はなお水のごときなり。孟、方なれば水方に、孟、円なれば水円たり」という孔子の言葉に由来します。従って、「人民の善悪は、為政者の善悪による」というのが本義です。

方は方形のことで、四辺形、四角形のことで、四角形の容器に入った水は四角形になり、円形の容器に入った水は円形になります。四角形の容器に入れた水に向かって、「円形になれ」と言っても不可能なように、為政者が悪い事をしていて、国民に「善い事をせよ」と言っても効きめがないことを教えたものです。

確かに、為政者が悪い事を平気でするようになりますと、世の中には、悪い事を平気でする人がふえます。勿論、為政者も人間ですから、過ちを犯すこともあるでしょう。しかし、そういう場合には、それを隠さず、言い逃れをせず、過ちを犯したことを率直に詫び、改めることです。

論語には、この事を、「君子の過ちや、日月の蝕のごとし。過つや、人皆これを見る。あらたむるや、人皆これを迎ぐ」と言っています。過ちを犯しても、率直にこれを認め、改めれば、国民もこれを非難せず、

かえって尊敬する、ということです。

“方”という字は、耕作に用いる、“すき”の形を表わした字で、農耕を主とする昔は、生きるために最も必要な道具でした。それで、この字は、“方法”“方途”というように“手だて”という意味に使われていました。

次に、この字は“方位”“方角”という意味に使われ、それが東西南北とあることから、“四方”“四角”の意味に使われるようになりました。この諺の「方円」がこれです。

“防”は、崖を表わす卩(小里扁)と方の合字で、四方が崖になっていることを表わした字です。また、中国の昔の都市は、四方を城壁で囲いました。これも“防”です。外敵を防ぐためのものだから“防壁”と言い、“防ぐ”という意味になりました。

“坊”は、家の四方を土塀で囲った建物という意味の字で、寺院、僧の住む所(坊舎)を言います。

“坊主”とは、僧坊の主人という意味の字です。僧は頭髪を短く刈るところから、頭髪の短い幼児を“坊や”“坊ちゃん”と呼ぶようになりました。

“紡”は、四方に糸巻きを置き、それを一本の糸により上げること(つむぐ)を表わした字です。

“芳”は、四方が草花に囲まれていて、香ぐわしいことを表わした字です。では、彷徨(彷徨)は何という字か、これは、自分で考えてみてください。また、訪は？ 妨は？